

自己点検評価（工学部人文社会科目会議）

2021年1月31日提出

1 学習・教育到達目標

（各科目における教育方針と、各学科カリキュラムポリシー、学修教育到達目標との連動について、2019年度から2020年度前期までの実施状況を確認し、点検を行う。）

・教育方針

《現状説明》

人文社会系教養科目では、教育方針を以下のように設定している。

科学技術と人間社会との関わりについて、幅広い知識や見方、考え方を身につけることを目的とする。そのために、技術やものづくりと密接に関わる人間の行動や心理、人間が創り出した多様な文化や思想、政治制度や経済システム、さらには今日の世界が直面する経済や社会、環境などの様々な問題を取り上げる授業を開講しています。

《点検・評価》

人文社会系教養科目の教育方針は、2009年度の学群制度の導入を契機に整備されて現在に至っている。現在の教育目標は、工学部の掲げる「豊かな教養を涵養する体系的学修」「他者との共生」という教育方針や社会の要請に十分に沿ったものと認識している。

《将来に向けた発展方策》

人文社会系教養科目担当者会議を中心に、マネジメントサイクルを円滑に回し、学部の教育方針および社会の要請を反映した教育目標の恒常的な見直しを行う。

グローバル化時代に対応できる広い視野と柔軟な思考力・応用力を養うこと、就業力の強化に資すること、を目標に大学4年間を通じた教養教育を推進する。

・各学科カリキュラムポリシー、学修教育到達目標と人文社会系教養科目のカリキュラムとの整合性

《現状説明》

人文社会系教養科目は、57科目114単位(別表1)という工学系単科大学としてはきわめて充実した人文社会教育カリキュラムを実現している。

現行のカリキュラムは、学修教育目標に沿った体系化と、学生（卒業生）の質を保証する、という2つの観点から2010年度に大幅な改訂を行ったものである。改訂にあたっては、人文・社会・総合というこれまでの科目群区分に加えて、「基礎教養科目」「基礎スキル科目」「展開教養科目」という第2の軸を取り入れることとし、1年次から履修できる基礎的・入門的な科目「基礎教養科目」と、3・4年次となり基礎力が付いてから履修することができる応用的・展開的な科目「展開教養科目」とに科目を整

理、人文社会的な知識を段階的・体系的に身につけることができるようにした。さらに、学生の質保証を目的として、文章能力や自己表現能力を身につけさせる「基礎スキル科目」という区分を新設(統廃合)した。

「基礎教養科目」としては「現代日本の社会」などの社会的な基礎知識を習得させる科目を拡充し、「基礎スキル科目」では「レポートライティング」や「プレゼンテーション入門」「自己表現とコミュニケーション」などの科目を新設・拡充している。また「展開教養科目」では、3・4年次における履修を強化するため豊洲キャンパスの開講科目を計画的に増やしている。

なお、人文社会系教養科目は、講義科目を中心としつつ、少人数の演習科目も整備している。講義科目は毎回の講義とそれに対する理解を小レポート、中間試験、期末試験等により評価する。演習科目は人文社会的な基礎知識と自己の専門分野とを関連させ、問題解決に応用する訓練を行っている。

加えて、人文社会系教養科目の教員は、教職課程の教育にも貢献している。具体的には、教職の必修科目である「日本国憲法」を非常勤講師2名が担当し、専任教員1名が統括しており、また専任教員1名が教職の選択必修科目である「情報技術と現代社会」を担当している。

《点検・評価》

工学部教育に関連・寄与する人文社会教育という目標に関しては、全体としては相当程度対応できるカリキュラムを実現できていると考えている。豊洲で開講数を増やしている「展開教養科目」については、就職活動も終わり、受講科目の減った4年生が、純粋に学修意欲から履修するケースや、卒業研究に社会的要素が含まれる学生がヒントや助言を求めて履修するケースなど、明らかな効果が見えてきている。

「基礎スキル科目」については、就職活動との関連もあって各学科・学生からのニーズがきわめて大きくなっている。「少人数授業」が求められる科目の性質上、開講コマ数の増加に直結するため、漸次コマ数を増やしている。

《将来に向けた発展方策》

大学をとりまく環境の変化によって、新入生の基礎学力確保、就職に備えた社会的スキルの向上など、共通科目、特に人文社会系教養科目に対する要求は増大しつつある。工学部においては、初年時導入教育の検討を進めており、そこでの検討によって人文社会系教養科目も一定の役割を果たすことになると考えている。

単に表面的な教養としての知識を身に付けさせるのではなく、社会人として主体的に倫理的判断を行い、社会的責任に基づいて行動できるような人材の育成を目指す。具体的には、就業力の強化に資するための「スキル系科目」、学生の人格陶冶を主眼とする「基礎教養科目」、そしてグローバル化時代に対応できる広い視野と柔軟な思考力・応用力を養うための「展開教養科目」を学部4年間にわたって段階的・系統的に配置することで、教養教育を充実させることを目指す。

科目全体としては、引き続きカリキュラムの大綱化、充実化、整合化、スリム化に向けて、個々の科目および体系全体の改善に努める。

2 教員

(各科目を担当する教員の構成(専任, 非常勤)と運営組織(科目会議), および各学科との連携体制に

ついて、2019年度から2020年度前期までの実施状況を確認し、点検を行う。)

・教員構成

人文社会系教養科目は、以下の表のとおり、専任教員7名と非常勤講師22名の教員で構成されている。また、教職科目の一部科目が人文社会系教養科目として開講されているため、それら教職科目担当者も表に列挙する。

<p>専任教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小出泰士 ・春日伸予 ・中村広幸 ・本田まり ・長原徹 <p>以下、建築学部建築学科所属</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗島英明 ・岡崎瑠美 	<p>非常勤講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮下克也 ・荒井幸康 ・岩間春芽 ・大西正人 ・山本剛史 ・北島洋樹 ・高木昭美 ・皆吉淳平 ・櫻井博行 ・関沢修子 (2019年度退職) ・樋笠知恵 ・三宅美栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・中村昭史 ・新木睦子 ・大岡優一郎 ・稲生知子 ・河本明子 ・西田みどり ・任龍在 ・河野純大 ・吉本 浩二 ・海上知明 ・古郡ゆう子
<p>教職科目教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田佳子 ・谷田川ルミ ・木田竜太郎 		

・運営組織

人文社会系教養科目の運営組織である科目会議は専任教員7名で構成されており、定期的開催したうえで、情報共有を綿密に行っている。共有した情報に関しては、各専任教員が、世話係を担当する非常勤講師に個別に連絡することで、情報の周知を行っている。

・各学科との連携体制

各学科との連携体制は以下の表のとおりである。2019年度から共通系教員が専門学科に分属したことにともない、各専任教員は分属先の学科会議に出席するとともに、そこで得られた情報を科目会議で報告するなどして、情報共有を行っている。

学群	教員名
機械	小出泰士 (機械機能工学科)
材料科学・化学	本田まり (情報通信工学科)
電気電子	春日伸予 (電気工学科)
通信情報	中村広幸 (情報工学科) 本田まり (情報通信工学科)

建築・土木	長原徹（土木工学科）
建築学部	栗島英明（建築学部建築学科） 岡崎瑠美（建築学部建築学科）

3 教育プログラム

（各科目で提供している具体的な科目，内容，実施方法（授業の形態，教員配置，開講数，学生の自主的な学修促進や学習サポート等），実施状況について，2019年度から2020年度前期までの期間で確認し，点検を行う。）

科目名	担当者名	授業形態	専任・非常勤の別（複数コマの場合人数）	開講数	学生の参加度合い	授業科目の内容
応用経済学	長原徹	講義	専任	2(前期1、後期1)	AL型授業	履修者に回帰分析を用いたレポートを提出させ、担当者がレポートの論理構造を吟味したうえで添削し、学生へ返却。その後、学生には改訂版のレポートを再提出してもらう。以上のことを、学期中に複数回行っている。
福祉と技術	中村広幸	講義	専任・非常勤（3人）	4(前期2、後期2)	AL型／実習型授業	障害当事者の講師及びゲストスピーカーを交えた議論や疑似体験を行い、履修者に課題を認識させている。
メンタルヘルス・マネジメント	春日伸予	講義	専任	2(前期1)	AL型授業	大学での円滑な学修の基盤となる精神的健康を、学生が自己管理するためのメソッドを習得させる。自己管理に必要な「自己洞察」や「気づき」を高めるために、標準化された心理検査やミニワーク及びグループワークを頻繁に行い、演習レポートや期末レポートによって習熟させている。
法学入門	本田まり	講義	専任	6(前期3、後期3)	AL型授業	2019年度は、裁判の傍聴または時事問題に関するグループディスカッションを行った。2020年度前期は、遠隔授業においてオンデマンド型で動画を視聴した後、

						同時双方向型でグループディスカッションを行った。これらを実施した後、レポートまたはミニッツペーパーを提出させている。
地域と環境	栗島英明	講義	専任	1(前期 1)	AL 型授業	前半は、世界と日本の事例から持続可能性 (SDGs) に関する講義を実施し、毎回小テストとミニッツペーパーを提出させている。後半は、持続可能な地域づくりのためのグループワークを行う。2020 年はオンラインホワイトボード Miro を用いてグループワークを実施した。
グローバリゼーション論	岡崎瑠美	講義	専任	2(前期 1、後期 1)	AL 型授業	前半は身近なところからグローバル化について考え、後半は負の側面から都市のグローバルについて考えた。学生は授業後毎回コメントシートを提出した。
技術者の倫理	小出泰士	講義	専任	4(前期 2、後期 2)	AL 型授業	毎回、技術が原因で過去に起きた事件や事故の事例を取り上げ、倫理的、社会的、法的側面から問題点を検討する。毎回、小テストを課し、質問および解答に対しては、個々にコメントをフィードバックした。